

## 1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。  
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2.学校ごとの指標

### 【短期指標】

国語<文科省標準化得点>100  
 算数<文科省標準化得点>100

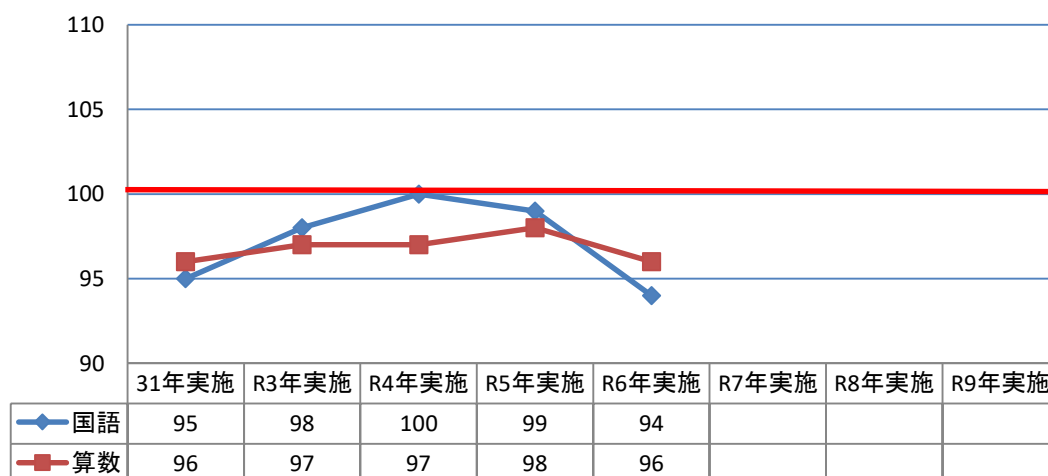
## 3.指標に向けての取組

- ☐ 単元構成を工夫した習熟度別・課題別分割授業の実施
- ☐ 朝の活動における基礎基本の定着
- ☐ 書く活動及び対話等による交流活動の充実
- ☐ 家庭学習の習慣化

## 4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

|     | 国 語 | 算 数 |
|-----|-----|-----|
| 本校  | 94  | 96  |
| 嘉麻市 | 99  | 98  |
| 全国  | 100 | 100 |

## 推移



## 5.各学校における分析

□本調査の算数においては、短期指標である100に到達できなかったものの、昨年度同一集団においてCD層の割合が8.8ポイント減少したという結果から、児童の学習意欲が向上してきていることも成果の一つであると考え。その要因としては、「学力向上プラン」に基づき、単元テストの前に形成的評価としてプレテストを実施し、児童の通過率によって学力層を把握した上で、学習内容の確実な定着を図るために習熟度別並びに課題別の分割授業に取り組んできた結果、CD層に着目した取組が進み、単元テスト期待値の通過率が増加してきたことが考えられる。

□朝の活動において、カスタ(AIドリル)や学習プリント等を使って、授業内容の習熟と補充を図るための練習問題をピックアップして取り組ませてきた。その結果、児童の学習意欲の喚起につながった。

□本調査の国語においては、短期指標である100に到達できなかった。特に、「話すこと・聞くこと」の正答率が全国・県と比べて大きく下がり、課題となった。その要因としては、自分の考えを書く活動が対話活動等の交流活動に十分に生かしきれていなかったことが考えられる。今後、授業場面において自分の思いや考えを出し合う交流活動をより充実させるとともに、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにどのように書くかという表現の方法を確かめさせる必要がある。

□家庭学習では、平日全くしない児童の割合が5.0%であった。また、週末などの休日全くしない児童の割合は17.5%であり、自学の奨励等、自らが進んで行う家庭学習の内容の工夫が必要である。

## 6.各学校における今後の取組

□単元構成を工夫した習熟度別・課題別分割授業の実施【継続】

- ・複数体制による授業の実施
- ・プレテスト等による形成的評価を生かし、児童の学び方に応じた学習グループの編成
- ・単元を1サイクルとした短期検証⇒期待値通過率80%以上

□朝の活動における基礎基本の定着【継続】

- ・家庭学習の解説
- ・チャレンジプリント
- ・カスタ(AIドリル等)
- ・MIM

□自分の思いや考えを出し合う交流活動の充実【新規】

- ・児童の興味・関心をもたせるような学習活動の工夫
- ・条件を指定した書く活動の設定(文字数指定・キーワード指定・複数の条件を指定等)
- ・目的や意図に応じて、根拠や理由を明確に示して自分の考えを書く活動の設定
- ・書いた内容を交流し合い、自分の考えを付加・修正・強化する対話等による交流活動の設定(ペア、班、全体)

□家庭学習の習慣化【継続】【新規】

- ・家庭学習、家庭読書の習慣化を図るために、保護者と協働した取組の実施(「うすい家庭“共育”ノート」)
- ・個人の課題に応じた家庭学習の実施
- ・「学年×10分+10分」の奨励
- ・週末課題の確実な提示と見取りの工夫
- ・自学の奨励
- ・カスタ(AIドリル等)

## 7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、AIドリルを活用した個に応じた家庭学習課題の推進を図る。

また、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。

◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方、ICTの利活用について指導する。